

和歌山市立木本小学校

令和3年度全国学力・学習状況調査結果の概要と具体的な取組

調査内容

実施日：令和3年5月27日(木) 実施対象：6年生

全国学力・学習状況調査は、出題範囲を調査実施学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、国語・算数の2教科について調査します。調査内容については、次の2点です。①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等にかかわる内容 以上2点について一体的に問う内容です。

教科調査の結果分析より

	国語	算数
本校	58	62
和歌山市	65	70
和歌山県	65	70
全国	64.7	70.2

《国語科の調査結果に見える本校児童の傾向》

無回答率が記述式の問題も含め0%のものが多くことから、粘り強く問題にとりくんだ様子が伺える。

- 課題①主語を選択する問いの正答率が低いこと。
- 課題②目的や意図に応じて、資料を使い説明をすること。
- 課題③目的や意図に応じて、話の構成を工夫し、自分の考えが伝わるように話したり書いたりすること。

《算数科の調査結果に見える本校児童の傾向》

問題文が長く、情報量や条件が多い問題に対しては、無回答率が高くなるなどの傾向から、問いを読んだ段階で取り組むことをあきらめたり、問いの意図を読み取ることを苦手としたりする様子が見られる。

- 課題①基礎的な図形の構造や面積の求め方を応用して考えること。
- 課題②示された条件に対応した記述や図表を問題文から見つけ、答えを導くこと。
- 課題③文章を読んで、題意を捉え、課題解決するという一連の流れに苦手意識をもっていること

質問紙調査の結果分析より

児童質問紙調査は、児童の学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査です。

《関心・意欲・態度について》

国語の学習も算数の学習も大切だと考えている児童は、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」を合わせると9割を超える。しかし、国語の授業で目的に応じて書いたり表現を工夫して書いたりできているかの割合は、約7割になる。また、算数では、学習したことを普段の生活の中で活用できないかを考えるかの割合は約6割となる。漢字を覚えたり公式を覚えたりすることで安心してしまい、発展的な学習に取り組む姿勢に弱さを感じることもある。

《家庭学習や読書について》

ほとんどの児童は学校から出された宿題に家庭で取り組んでいる。家庭で3時間以上勉強をしている児童が全国平均を上回っているが30分以内の児童も2割以上いたり、読書時間も、2時間以上から全くしない児童もいたりするなど、個人によってかなり差がある。

《基本的生活習慣についてについて》

朝食の摂取率に関する問いに対して肯定的な回答の割合が9割5分を超えている。このことは、ご家庭の協力や「元気大作戦」の実施や保健・学級指導を通して具体的な数値を示して指導していることも成果の一因であると考えられる。

子どもたちの日ごろの様子から

規範意識や自己有用感に関する質問に対して肯定的な回答をした児童の割合が高い傾向にありました。授業では非常に落ち着いて学習に取り組み、また、自分より下の学年に優しく接している日ごろの様子が質問紙の回答からうかがえます。

調査結果を受けて、本校が具体的に取り組んでいくこと

《帯の時間・補充学習の活用》

- ・昼休憩終了後の15分間実施している「のびっこタイム」の時間や放課後学習等を活用して、基礎学力の定着を図っていく。また、全校で読書に取り組み、読書習慣の定着を図っていく。
- ・全校、または学年間で定期的に情報交換を行い、児童の学習の実態に即した内容にしていく。

《家庭学習について》

- ・家庭学習の時間については、家庭学習の手引きを参考に、学級の児童の実態を考慮する。
- ・個々により宿題に要する時間に違いが生じてくるので、家庭学習の時間を一定確保するため、自主学习ノートに積極的に取り組む。

《授業の中で》

- ・主語や述語、修飾語などを普段の授業の中で頻繁に取り入れ、習熟を図る。
- ・感染症拡大防止対策をしたうえで、短時間のグループやペア学習など、子どもたち同士が話し合ったり、教え合ったりする活動を多く取り入れていく。
- ・普段の授業の中でも、漢字や計算などの小テストを行うことにより、児童一人ひとりの習熟度を把握し、個別指導にいかしていく。